

新潟大学の環境への取組み



新潟大学長
環境最高責任者

長谷川 彰

環境方針

新潟大学は、広大な緑と日本海に面した潤い豊かな立地性に恵まれ地域住民と一体となり発展してきました。しかし今日の大量生産、大量消費、大量廃棄を基調とする社会経済活動や生活様式が定着した中で、地球規模の環境破壊が叫ばれています。この創造性豊かな環境を未来に引継ぐため……6つの基本方針を掲げ「地域共生型の環境調和」を基本理念とし……叡智を結集します。これは、「新潟大学理念・目標」と双幹をなすものです。

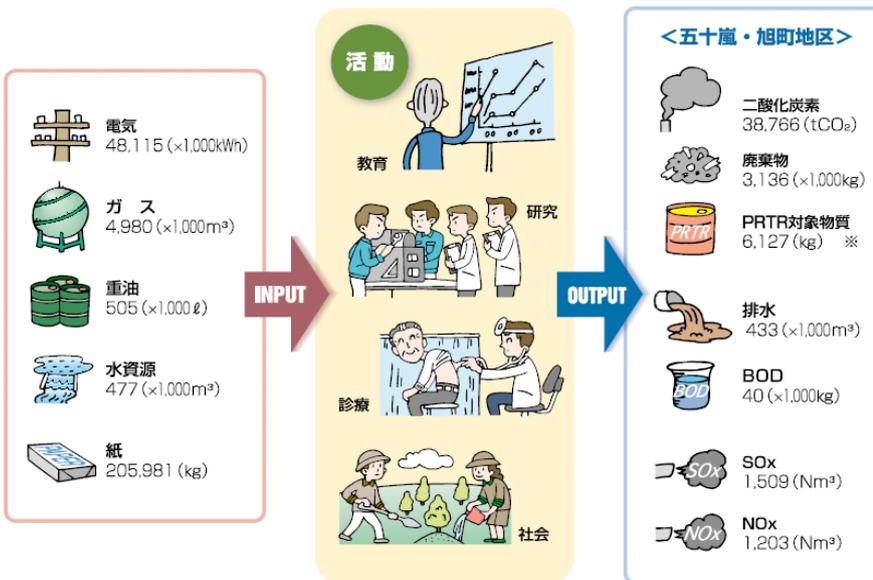
環境報告書の全文を
ホームページで公開しています

<http://www.niigata-u.ac.jp> 又は一般のWeb検索により「新潟大学環境報告書」で呼び出せます。

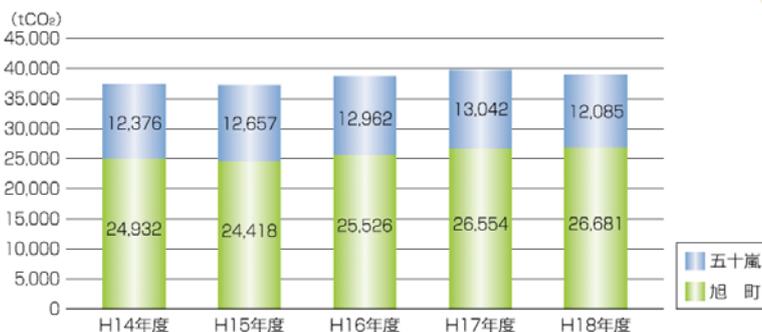


【特集】1 医・歯学部と附属病院の環境活動
2 学生の環境活動

環境負荷の状況



温室効果ガス排出量推移



特集1

医・歯学部と附属病院の環境活動

- 1-1 医療・医学研究廃棄物の管理
- 1-2 環境に配慮した病院整備等
- 1-3 歯学部新入生合宿研修におけるゴミ出しマナー講義
- 1-4 病院周辺クリーンデーの実施
- 1-5 節電・節水・省エネポスター、シールの作成
- 1-6 歯学部における環境配慮活動の取組み事例

特集2 学生の環境活動

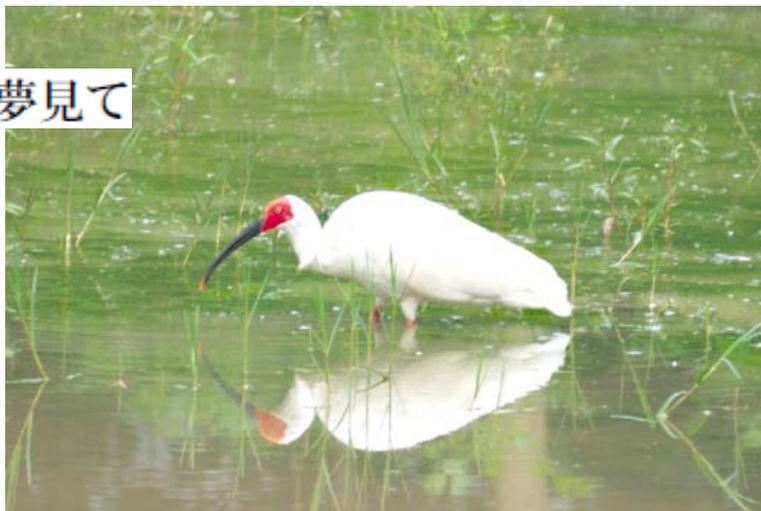
- 2-1 環境系サークルひまわり
- 2-2 学生ボランティア本部「ボランち。」
- 2-3 にいがた環境プロジェクト「ROLE」
- 2-4 新大ナビ「キャンパス町内会」
- 2-5 まめっこ 椿油プロジェクト
- 2-6 学生と教職員による「もりひかり」プロジェクト

佐渡の空にトキが舞うのを夢見て

2008年、環境省は佐渡トキ保護センターで飼育繁殖を行ってきたトキをいよいよ野生復帰させるため、試験放鳥を開始します。

新潟大では平成13(2001)年度よりキプロジェクトを発足し、主に棚田再生を生息地確保のために行ってきました。

かつてトキが生息していた広大な地域に本種を復活させる道筋をつけることができれば、過去に類を見ない自然再生事例になることでしょう。



水田で採餌するトキ(関島恒夫先生撮影)



中央が原田教授

原田修治先生の研究による
「クイック水素ガス検知センサーの開発」
が文部科学大臣賞を受賞しました(2006年6月)

副専攻制度

副専攻制度は、意欲ある学生に発展的学習の機会を提供するため、2タイプ20のプログラムが開講されています。



谷川いづみ

理学部生物学科 平成18年度卒業
大学院自然科学研究科博士前期課程
生命・食料科学専攻1年

副専攻『環境学』を学んだ受講者の声を聞いてみました

理学部の専門は生物学ですが、環境系分野にも関心がありました。環境学が含まれていたことから副専攻制度に興味を持ちましたが、苦手分野や他学部・他学科の専門科目の聴講が必要なこと、卒業時修得単位数の加算や成績評価基準、認定されたとしても新潟大学オリジナルの制度のために世間一般には通用しないのではないか、という不安がありました。けれども、環境学は以前から興味を持っていたテーマであること、卒業認定科目以外の単位取得の目標になりうるといった理由で、副専攻制度に挑戦してみようと思いました。聴講してみると、興味ある分野には満足できたのですが、苦手分野では認定条件の成績が心配でした。終わってみれば、視野は広がり、教養は深まったと思っています。環境問題について考えたとき、以前とは違う見方ができるようになり、環境問題に関係した活動にも興味を持つようになりました。また、企業の環境対策にも注目するようになり、就職活動では企業選びの基準にすることができるのではないかと思います。



新潟大学

●お問い合わせ先

新潟大学施設管理部

TEL.025(262)6075/FAX.025(262)6068

e-mail kankyo@adm.niigata-u.ac.jp

地域共生型の環境調和

を目指して